

社会教育委員からの活動報告を受けての教育委員協議会での検討

1 CSグループ

(1) 社会教育委員からの活動報告要旨

課題	① 各CS内、各CS同士のつながりを強化する必要があること ② ボランティアが高齢化し、またその担い手が不足していること ③ 学校や地域において、CSの認知度が低いこと ④ CSが抱える悩みが行政と共有できていないこと
対応策の提案	➡関係者が悩みを共有し、「好事例の横展開」ができる場の設置が必要 ○そのための具体策： 関係者（学校担当者・地域コーディネーター）会議の継続開催

(2) 教育委員による協議結果

- ・課題提起のとおり、学校によっては、CSの目的や役割が、地域の方々や、教職員・PTAなど学校関係者の双方に十分浸透しておらず、地域の方が活動に参加するのに遠慮やためらいがあると認識しています
- ・市教委とすると、まずは、学校ごとの状況を改めて把握したいと考えます
- ・そのうえで、機会を捉えてCSの役割や取組事例を各種情報伝達手段で周知すること、また、学校間の取組の差があるならそれを埋められるよう、校長会等でCSとの協働により課題解決に至った事例を紹介するなど、好事例の横展開を図ること、に取り組むことから着手します
- ・これに加えて、社会教育委員提案の地域コーディネーター間の会議についても、有効な取組であることから、この枠組みを生かし継続を検討します

2 子育て支援グループ

(1) 社会教育委員からの活動報告要旨

課題	① 居場所の存在や支援情報が十分に周知されていないこと ② 継続的な運営のための財源確保が困難であること ③ 不登校児童・生徒の居場所が学校の出席扱いにならないこと ④ 相談窓口が多岐にわたり、利用者が適切な支援にたどり着にくいこと
対応策の提案	➡分散する窓口を一元的にまとめるワンプラットフォーム化が必要 ○そのための具体策： 情報を一元化したマップの作成

(2) 教育委員による協議結果

- ・居場所や支援サービス、相談窓口など、課題提起された、必要とする人に届けるべき情報のプラットフォームに関しては、市として新たな動きが出てきたところです
- ・それは、現在福祉課を中心に構築している、個人や世帯が抱える課題が複雑化・複合化する中、制度や組織の壁を越えて、重層的に相談や支援を開する「重層的支援体制」の整備を進める中、その一環として、様々な支援情報を1つのプラットフォームで提供できるシステムです
- ・当該システムは、今回提案いただいた提供が望ましい情報はもとより、それ以外の各種支援情報も一元的に、スマホなどの情報端末で気軽に入手できるなど、紙ベースによる情報提供より秀でている面もあります
- ・市教委とすると、このシステムの活用により、課題対応を図っていきたいと考えています
- ・一方で、社会教育委員提案の一元化マップ（カード）の作成も、気軽に手に取れるという利便さを踏まえ、既存の予算の範囲内において作成を支援したいと考えています